

【(2015年3月期 第1四半期) 機関投資家・アナリスト向け決算説明会 議事録】

日本ハム株式会社

・開催日時	：2014年8月4日(月) 10:00～11:00
・出席者	：取締役常務執行役員(グループ経営本部長、経理財務部・IT戦略部担当) 畑 佳秀 グループ経営本部 広報 IR 部部長 中島 茂

【質疑応答】

<全体>

Q) 通期営業利益400億円の達成確度は?

A) 第1四半期の結果及び第2四半期の見通しに基づき、加工事業本部・関連企業本部は、原材料高騰などの要因により下方修正、食肉事業本部は上方修正した。第2四半期の結果に基づき見直したい。

Q) 今後の営業利益はどう考えているか?

A) まずは営業利益率4%そして5%に向けて取り組んでいく。そのためには、加工事業本部の利益率と海外事業の利益拡大などが課題。

Q) 自社株買いの考え方は?

A) 株価目線での自社株買いは考えていない。ROE、最適資本構成、財政状態などを踏まえて検討する。

Q) 新中期経営計画パートIVにおける取り組み中の課題は?

A) 積極的な投資による海外での事業拡大に向けての取り組みを加速化させる。また、ブランド力の強い商品を構築することも引き続き取り組んでいく。

<食肉事業>

Q) 豪州事業の第1四半期及び第2四半期の状況は?

A) 仕入れコストは上昇したが、米国向けなどの販売が好調に推移し、全体としては販売価格も上昇した。第2四半期も同様の状況が続くと見込んでいる。

Q) 豪州事業の第3四半期以降の状況は?

A) 通期では売上数量の減少(MLAは年間約8%の出荷減を予測)を想定。牛の生体の確保が困難な状況や更なる仕入れコストの上昇が予測されており、現段階では不透明な状況である。

Q) 食肉の相場動向は?

A) 国内鶏肉相場は、牛肉・豚肉の高値相場の影響もあり、依然として高値水準の継続を予測している。国内豚肉相場は、PEDによる生体不足などの影響もあり、年末までは昨年を上回る相場高が続くと予測している。

<加工事業>

Q) 今後の加工事業の利益向上に向けては?

A) ハム・ソーセージ事業は、茨城第1工場高生産性ラインの稼働率向上や最適生産体制構築などにより利益率向上をはかる。
また、デリ商品事業は、主力ブランドの販売促進強化、冷凍食品強化、新商品カテゴリーの開発などにより、売上数量を伸ばさせ利益率向上をはかる。

Q) シャウエッセンの伸びの要因は？

A) 30周年販売促進を強化中であり、今後も徹底した販売強化をはかっていく。

Q) 加工事業本部のコスト改善効果の状況は？

A) 通常のコストダウンに加え、業務用等の価格転嫁、ハム・ソーセージの数量拡大等により計画を上回る成果となった。今後も継続して取り組んでいく。

以上